

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2026年 第10週（3月2日～3月8日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 3週連続減少」

第10週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,667例であり、前週比7.3%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、水痘、流行性角結膜炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.26、2.13、0.75、0.36、0.31である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比2%減の968例で、南河内8.00、北河内6.27、中河内6.21、泉州5.30、大阪市南部5.12であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は36%増の391例で、泉州3.85、北河内2.73、中河内2.63である。

RSウイルス感染症は12%増の138例で、大阪市北部1.46、北河内1.36、中河内1.05であった。

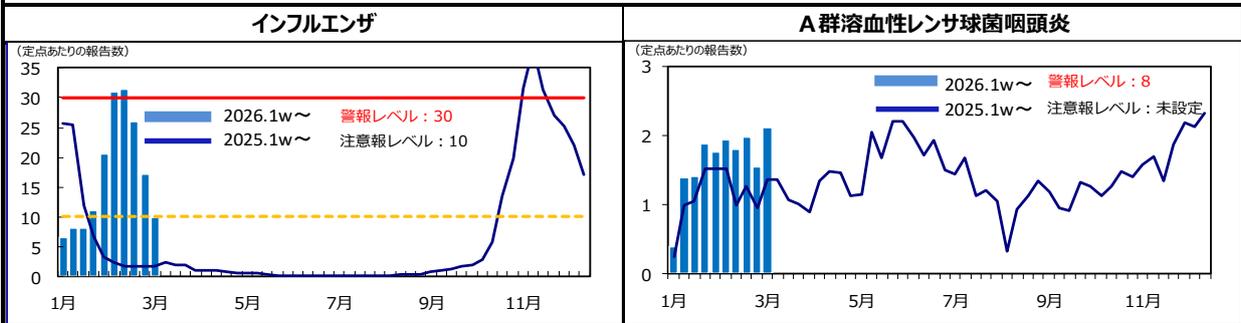
水痘は61%増の66例で、南河内0.60、大阪市南部0.53、豊能・泉州0.50である。

流行性角結膜炎は7%増の16例で、大阪市西部1.50、中河内0.80、南河内0.50であった。

インフルエンザは42%減の2,904例で、定点あたり報告数は10.05と3週連続で減少がみられている。北河内14.70、南河内13.74、中河内11.83、大阪市北部11.30、大阪市西部10.60であった。

新型コロナウイルス感染症は18%減の136例、定点あたり報告数は0.47である。泉州0.76、南河内0.70、大阪市南部0.69、豊能0.53、北河内0.51であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は10%減の11,195例、定点あたり報告数は38.74である。南河内53.78、北河内49.62、中河内42.59、大阪市西部42.13、泉州41.24であった。



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第10週3月2日～3月8日）

第10週の順位	第9週の順位	感染症	2026年 第10週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2025年 第10週の 定点あたり 報告数	2026年第10週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.26	2%減	12.84	10-14歳_13%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.13	36%増	1.36	10-14歳_16%
3	3	RSウイルス感染症	0.75	12%増	1.76	1歳未満_28%
4	6	水痘	0.36	61%増	0.17	10-14歳_36%
5	4	流行性角結膜炎	0.31	7%増	0.19	20歳以上_88%
参考		インフルエンザ (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	10.05	42%減	1.74	10-14歳_19%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	0.47	18%減	2.50	80歳以上_18%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	38.74	10%減	-	1-4歳_34%

2025年第15週から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)サーベイランスが開始となりました。

2025/26年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

各疾患の詳細は、[大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）](#)をご覧ください。

第10週のコメント

～レジオネラ症～ 2025年は、速報値で大阪府では154例、全国では2,413例の報告がありました。

全数把握感染症	
レジオネラ症	
<p>レジオネラ症は、レジオネラ・ニューモフィラ (<i>Legionella pneumophila</i>) を代表とするレジオネラ属菌による細菌感染症である。レジオネラ属菌は、土壌や水環境に、普遍的に存在する菌であり、人工環境（噴水等の水景施設、ビル屋上に立つ冷却塔、ジャグジー、加湿器等）や循環水を利用した風呂から発生したレジオネラ属菌を含むエアロゾルを吸入することで感染する。病型として肺炎型と、一過性で自然に改善するポンティアック熱型がある。ヒト-ヒト感染はない。細胞性免疫機能が低下したヒトでは肺炎を起こす危険性が通常より高いので、特に留意する必要がある。高齢者、新生児、大酒家、重喫煙者、透析患者、悪性疾患・糖尿病・AIDS患者などはハイリスク・グループである。</p> <p>レジオネラ症（大阪府感染症情報センター）</p> <p>レジオネラ症（国立健康危機管理研究機構）</p>	<div style="text-align: center;"> <h3>年別累積報告数（大阪府）</h3> </div>

表2. 大阪府全数報告数（2026年 第10週3月2日～3月8日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内 累積報告数								府内累積報告数
		豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	
3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症	2					1			1	8
4類感染症	E型肝炎	1							1	1
	マラリア	1							1	1
	レジオネラ症(肺炎型)	5	1	1		1			2	26
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1			1					22
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2		1				1		3
	侵襲性肺炎球菌感染症	3			2			1		60
	梅毒	11		2	5			1	3	195
	百日咳	2	1				1			90
結核 (2026年1月分)	結核 新登録患者数：89名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 30名) (府内累積報告数 89名、内 肺・喀痰塗抹陽性 30名)									

(2026年3月10日 集計分)